第4回市議会定例会 一般行政報告

第4回市議会定例会が12月6日に招集され、山下市長から一般行政報告を行いましたので、その概要をお知らせします。

1 市記念事業について

今年で開村130年・市制施行60年の節目の年を迎えたことから、10月21日に文化交流ホール「み・らい」で記念事業を開催しました。

第一部の記念式典には、深川市功労者、市内団体などの代表者をはじめとする多くの市民のみなさんに加え、市外からの来賓や招待者など、約350人の参列がありました。式典では、これまでの10年間に、叙勲・褒章ならびに、市功労章を受章された方々を紹介したほか、芸術・文化・スポーツなどの分野で、その活動が全国・全道大会などにおいて優秀な成績を収めるなど、本市のイメージアップと知名度の向上に大きく貢献された個人5名、団体5組を「ふかがわふるさと大賞」として表彰しました。結びに、小学生と新社会人の代表から、将来のまちづくりに対する誓いの言葉が述べられ、鶴岡市議会議長の発声による万歳三唱で、参加者全員が本市のさらなる発展に向け、決意を新たにしたところです。

第二部の記念講演会では、深川西高等学校の卒業生でイギリス在住の作家黒木亮さんを講師に迎え、「箱根駅伝と経済小説」をテーマに講演いただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。さらに、この10年間の市政の軌跡を取りまとめた記念誌を作成し、記念式典の参列者に配布するとともに、11月上旬に、市内全戸に配布したところです。

このたびの記念事業は、議員各位をはじめ、多くの市民のみなさんの参加・協力があり、簡素な中にも先人への感謝とふるさと「深川」への愛着を育む機会として、大変有意義なものになりました。

2 新型コロナウイルス感染症について

国における新型コロナウイルス感染症対策は、9月26日からこれまでの感染者の全数報告が見直されたことに伴い、感染者への支援の対応が変わり、高齢の方や入院を要する方、重症化リスクがあり治療が必要と医師が判断する方、妊娠している方などは、これまでと同様に届け出が必要となり、保健所が引き続き療養管理を行いますが、それ以外の方については、自身で療養管理をする対応になりました。

また、本市における感染状況について、届け出に基づいて公表されている市町村別の感染者数では、10月は減少傾向で経過していましたが、11月中旬以降は、再び増加傾向となっていることから、引き続き市民のみなさんには基本的な感染防止対策に努めていただくよう、ホームページなどで周知をしているところです。

次に、新型コロナワクチンの進捗状況について、10月から2回以上の接種を完了したすべての方を対象に、オミクロン株対応ワクチンの追加接種と5歳から11歳までの方への3回目の接種を開始しました。また、11月からは5回目の接種対象者のほか、新たに生後6か月から4歳以下の乳幼児への接種も開始しています。今後とも、各医療機関と連携を図りながら、市民のみなさんが安心して接種できるよう努めてまいります。

3 深川駅周辺複合施設基本計画の策定について

建設から45年以上が経過している中央公民館は、耐震やバリアフリーの基準を満たしていないなどの課題を抱えており、また、バスターミナルは、平成19年度にバス事業者が運営していた施設が廃止されて以降、公共交通の拠点施設の整備が長年の懸案事項となっています。

このような状況を踏まえ、両施設の機能を中心とした複合施設の整備に向けて、市では本年度、市民のみなさんで構成する複合施設整備検討委員会や市議会複合施設整備特別委員会での議論をはじめ、中央公民館利用サークルの意見を聴く会や学生によるワークショップのほか、市民説明会やパブリックコメントなど、さまざまな場面で意見などをいただいた上で、基本計画の検討を進めてきました。

そして市では、これらの取り組みによる検討経過を踏まえ、11月29日に「深川駅周辺複合施設整備基本計画」を策定しました。今後はこの基本計画を基に、建設予定地の土地・建物に係る各種調査などを行い、基本・実施設計の作成を進めるなど、複合施設の整備に向けて、着実に取り組みを進めてまいります。

基本計画の概要は、本紙6～7ページをご覧ください

4 農作物の収穫の状況について

本年秋の主な農作物の収穫状況は、空知農業改良普及センター北空知支所とJAきたそらちなどの情報によると「水稲」は、農林水産省が10月25日に発表した全国の作況指数100に対し、北海道、北空知ともに106と、平年を上回る予想収穫量となっています。また、市内で生産されたコメは、食味が良いとされる低タンパク米の割合が昨年を大きく上回る結果になりました。「そば」は、6月下旬の降雨、7月上旬の高夜温の影響により収量の低下が懸念されましたが、その後天候が安定して経過したことから、収量・品質ともに平年並みの状況であります。「大豆」は、天候が安定して経過したことから、収穫は順調に進み、収量・品質ともに良好であります。「りんご」は、生育・収穫ともに順調に進み、果樹肥大・着色・食味とも良好であります。

今年は、総じて良好な出来となり、コメに関しても4年連続の豊作という結果となりました。来年度も豊穣の年となるよう、引き続き、関係機関・団体と連携しながら、適切な対応に努めてまいります。

5 農産物等消費促進！秋の味覚フェア

本イベントは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により在庫の滞留や価格が下落するなどしたコメ・そばを中心に市内農畜産物や特産加工品の消費拡大を図るため、10月15日に生きがい文化センターの特設会場で開催したものです。当日は、朝から天候に恵まれ、たくさんの市民が来場される中、新米ご飯の振舞いのほか、ふかがわポークや深川牛、カレーなどを販売し、多くの方が舌鼓を打っていました。

また、農畜産物や特産品を景品とした抽選会のほか、こどもえんにちや野菜の詰め放題、お米の重量当てゲーム、こめっちジャンケン大会、深川市舞台芸術交流協会によるステージイベントなどが会場を盛り上げました。

今回のイベントを通じ、深川産農産物の魅力を市民のみなさんへ伝えるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で販売量が減少している地元農畜産物や特産品の消費拡大の一助になったと考えているところです。

※このほか吉村教育長から「新型コロナウイルス感染症における小中学校の対応」「令和4年における夏期のスポーツ合宿の状況」「深川市スポーツ賞および文化賞」「文化総合芸術祭」の4件について教育行政報告を行いました。